



沖縄子どもの未来県民会議 地域円卓会議 in 宮古島市

宮古島市の子どもの貧困に対して、
地域（民間）・学校・居場所と連携して何ができるか

実施報告書

日 時： 2017 年 11 月 28 日（火） 18:30-21:00
場 所： 宮古島市中央公民館 研修室（沖縄県宮古島市平良下里 315）
主 催： 沖縄県、沖縄子どもの未来県民会議
共 催： 宮古島市
協 力： 公益財団法人みらいファンド沖縄、NPO 法人まちなか研究所わくわく

報告書作成
NPO 法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

ACTIVITY REPORT

【報告】沖縄子どもの未来県民会議 地域円卓会議 in 宮古島市



■日 時：2017年11月28日（火）18:30-21:00
■場 所：宮古島市中央公民館 研修室
■着席者数：9名（論点提供者、司会、記録者含む）
■来場者数：60名（行政・NPO・福祉機関・企業）

■主 催：沖縄県、沖縄子どもの未来県民会議
■共 催：宮古島市
■協 力：公益財団法人みらいファンド沖縄
NPO 法人まちなか研究所わくわく
■お問合せ：NPO 法人まちなか研究所わくわく

論点提供

川満 孝幸 氏（沖縄子どもの未来県民会議）

宮古島市の子どもの貧困に対して、 地域（民間）・学校・居場所と連携して何ができるか

沖縄県で実施した平成27年度「子どもの貧困実態調査」において、29.9%の子どもが貧困状態に置かれていることが明らかになったほか、平成28年3月には、子どもの貧困対策の基本方向を定める「沖縄県子どもの貧困対策計画」を策定しました。そうした中、県民の総力を結集し、沖縄の未来を創造する子どもたちが安心して暮らせるよう、同年6月に県内各界各層の110団体からなる「沖縄子どもの未来県民会議」を設立し、子どもの学びと育ちを社会全体で支え、地域の実情に即した対策に取り組むこととしております。今回の円卓会議では、宮古島市における子どもの貧困問題に対して、一つひとつ事実を確認しながら課題を共有し、子どもの貧困に、宮古島市の地域、学校、居場所づくりを行う団体が連携して何ができるのかを議論します。県民のみなさんや関係者、専門家の方々と一緒に、考えていきたいと思っております。

センターメンバー



川満 孝幸
沖縄子どもの未来県民会議



下地 克浩
宮古島市役所
福祉部次長兼
福祉政策課課長



与那覇 周作
宮古島市教育委員会 教育部
学校教育課
指導主事



山内 優子
沖縄子どもの貧困解消ネット
ワーク
共同代表



来間 優美子
下地児童館
館長



新山 広明
セレブラム教育システム
株式会社
代表取締役



宮里 敏男
大和電工(株) 取締役 会長
やまと商事(株)
代表取締役

➤ 円卓会議に参加いただいた皆さんから

事実の提供

- 日本・沖縄・宮古島の基本情報（平成をHと表記）

	宮古島市（沖縄県）	日本
人口（H27年）（人）	51,186（1,433,566）	127,094,745
子どもの人口（H27年）（人）	10,166（298,104）	19,494,093
子どもの相対的貧困率（%）	—（29.9（H26年））	13.9（H27年）
ひとり親の貧困率（%）	—（58.9（H26年））	50.8（H27年）
保護者の就学援助率（H26年度）（%）	18.62（20.16）	15.39
10代の婚姻率（%）	—（6.4（H28年））	3.1（H28年）
10代の出産割合（H28年）（%）	2.7（2.6）	1.1
離婚率（H28年）（%）	2.72（2.59）	1.73
母子世帯出現率（H25年度）（%）	5.27（5.46）	—
児童館の設置数（箇所）	6（74）（H29.4）	4,598（H26.10）
子どもの居場所の設置数（箇所）	4（H29.10） （112（H29.6））	—

- 子どもの貧困から見えてくること
 - ・保護者と子どもが向きあう時間が少ない
 - ・子どもの頃から希望が叶えられない現実直面
 - ・自己肯定感、学力等に負の影響が強く出てしまう
- 困窮世帯は、高学年になるほど地域行事の不参加率が上がる。その影響もあり、相談できる友人・知人がいない割合が増える傾向で、社会的に孤立しがちである
- 絶対的貧困：1日1ドル以下。食べることに苦勞する
- 相対的貧困：世帯の手取り収入÷√世帯人数<126万円以下の方。（例）：200万／√4=100万（手取り収入200万円の4人世帯）
- 沖縄県におけるひとり親家庭の就業率。母子：87.5%（全国 80.6%）。父子：92.3%（全国 91.3%）。沖縄県のひとり親は全国と比較しても多くの方が仕事をしている
- 世帯の可処分所得（手取り収入）を上げる取り組み
 - ✓ 行政・学校：給付金（児童扶養手当、就学援助、高校進学、大学進学のための給付型奨学金等）
 - ✓ 企業：非正規雇用の正規化、ひとり親の採用、労働生産性を向上させるための取り組み等
 - ✓ 沖縄子どもの未来県民会議：児童養護施設等を退所した子ども達に、大学や専門学校等の進学に要する入学金、授業料を全額支援している（昨年9名、今年18名）
- 子どもの不利益を改善する取り組み
 - ✓ 行政・学校：放課後児童クラブ利用料の負担軽減。無料塾の設置、子どもの居場所や各種支援員を配置し子どもの学びと育ちをサポート
 - ✓ 企業・地域：制服のリユースをきっかけにした子育ての相談場所、子ども食堂等

- 沖縄県子どもの貧困対策推進基金（H29 予算額 4.6 億円）
 - ✓ 各市町村では就学援助制度の充実、放課後児童クラブの負担軽減、沖縄県事業として乳幼児期における子育て世代包括支援センターの設置促進を行った
- 沖縄子供の貧困緊急対策事業（H29 予算額 11 億円）
 - ✓ 各市町村に支援員の配置（28 市町村 119 人）
 - ✓ 子どもの居場所の設置（県及び 25 市町村 112 箇所）
- 沖縄子どもの未来県民会議（H29 予算額 0.8 億円）
 - ✓ 児童養護施設等退所者への大学等進学の給付型奨学金
 - ✓ 直接支援を届けるジョイントプロジェクト助成事業
- セレブラム教育システム株式会社
 - ✓ 沖縄子供の貧困緊急対策事業としてH29年1月より「こどもの居場所型学習支援教室まなびやあ」を運営開始
 - ✓ 沖縄県子育て総合支援モデル事業としてH28年12月より「高校生無料塾」を運営開始
- 宮古島市福祉政策課に所属する支援員 2 名
 - ✓ スクールソーシャルワーカー（以下 SSW、教育委員会の事業）と定期的な会議で情報交換等を行い、連携して支援が必要な生徒を掘り起こし、個別対応をする
 - ✓ 無料塾などの居場所に行きたいとの相談があった時に、その子の現状を確認して、居場所に繋げる役割
 - ✓ 子どもが、今、どういうことに困っているかを、保護者と面談をして、確認している（多い時 4、5 件/日）。口コミで相談に来られる人もいる
 - ✓ 支援対象条件は生活保護世帯、就学支援制度を受けているお子さん。それ以外の世帯は、本当に困っているかを確認し、課内で協議して、居場所に繋げる
 - ✓ 関わっている居場所は 2 箇所（デイゴ学習支援教室、まなびやあ）。50～60 名の定員で一杯の状態である。待機児童は 10 名程度いる
- 山内優子氏は、支援員 2 名のコーディネーターとして、毎月、宮古島に来ている
- 下地児童館
 - ✓ どここの地区の子でも幼児期から 18 歳まで無料で自由に使用出来る。しかし、基本的には下地地区の子が来る。下地小中学校から 1 km 以内の場所にある
 - ✓ 開館時間：平日 10:00～18:00、土曜 9:00～17:00
 - ✓ 平日の朝は、お母さんと乳幼児が来る
 - ✓ ハロウィンや餅つきなど、母親クラブと連携して、一緒に季節の行事を企画したりしている
 - ✓ 沖縄子供の貧困緊急対策事業として、H29 年 10 月から子ども食堂を始め、土曜日に食事提供、火、木曜日におやつを提供している

- 宮古島市のSSW6名は、33校（小中学校）を分担して、学校、保護者、本人の困りごとを聞き、関係機関に繋いでいる。SSWが個別に家庭訪問することもある
- 宮古島市生活福祉課では、母子世帯への就労支援や学習支援の対応を行っている
- 宮古島市では、平成28年6月から子どもの居場所を確保して、食の提供や学習支援を行っている。次年度には、居場所をもう一ヶ所増やすための、予算を要求している
- 市内の社会福祉法人瀬水学園は民間として、母子会と連携して子どもの居場所をつくっている

評価の提供

- 宮古島市では児童館や子どもの居場所は、県内の他の自治体と比べたら多い方だが、宮古島市教育委員会の資料には、小中学校で準要保護児童生徒数が1000名近くいると記載されており、本当に支援が必要な方はまだいると感じている
- 教師は貧困の状態を見つけやすい立場にある。学校の現場では、①家庭訪問をした時に家庭の状況が分かたり、②給食費、教材費を納めない、または、遅い、③授業参観に来ない親、④学校から就学援助の資料を渡すなど、家庭環境の変化に気づきやすい。情報を得て発信する役割はできるはず
- 宮古島市では、平成22年からSSWが配属された。それ以前は、貧困対策までは仕事がまわらず、また、行政のどこに繋いで良いか分からなかったはず。しかし、SSWの制度が入り、各支援に繋ぎやすくなっている
- 学校の先生は、生徒指導・調査・部活、保護者との面談など、授業以外の仕事が増えているのが事実ではないか。SSWの役割の認知進めば、学校、保護者からの支援して欲しいニーズが増えてくると思う
- 母子世帯の中でもより貧困なのは、DV（ドメスティックバイオレンス）を振るわれた母子である。地縁も捨てて居住地から逃げないといけないので、より孤立している
- 支援員、SSWを増やしたくても、専門性の高い人材が求められるので、人材不足は起こるかも
- 宮古島市は積極性がある、居場所を4箇所設置して、口コミ（子ども達が良かったとの感想）で広がるなど、他の場所では見られない形である
- 宮古島市はSSW6名（石垣市は1名）、児童館6館もあり、多い方である。市民も積極的に支えあっている
- 本土で少年院に入っている子どもの60%は普通の家庭の子だが、沖縄では60%は貧困の家庭の子である。本土とは違い、沖縄では貧困と非行に関係がある
- 「あそこの居場所は、貧困の子が行くところだから行くな」という、先生もいると聞いた。それは良くないので、（山内氏は）支援員の方と一緒に、教育事務所を訪問し、校長会で居場所の役割とか、支援員の役割を先生たちに説明もした。末端まで貧困の理解が進むのは、これからだと思っている

視点の提供

- 子どもの居場所に行ってほしい4つの事：食事の提供、学習支援、生活指導（文化的資源）、キャリア教育
- 母子支援施設が宮古島市と石垣市にはないので、1ヶ所ずつ作って欲しい（宮古の人は石垣に、石垣の人は宮古に行けるため）
- ひとり親世帯の方がふたり親世帯よりも貧困率は高く、離婚率が高い宮古島では、ひとり親世帯に焦点をあてた支援が必要である
- 情報を持っているのは学校であるため、学校をプラットフォーム化しないといけない
- 夢が無いなどの無気力な子には、世の中のことをうまく伝えていく事が重要
- 貧困の子ども達の中には、夜に親がいない家庭もあるため、深夜徘徊をする子がいる。家に帰れない子どもの夜の居場所づくりが必要
- 貧困対策は地域の実情の応じた取り組みが必要
- 児童館は誰でも行ける場所なので、小学生までは貧困に関係なく皆で一緒に遊び、食事をする。中学生になると、中学3年間は学習支援を行い、中学卒業の15歳で社会に出さないように、勉強して高校に行く。しかし、難しければ、ちゃんとした仕事をする
- 子どもが小さい時に対処していくべき。中学生になると指導が難しくなる、大人の言う事を聞かない、学習も遅れ始めている。早期に支援すると、貧困の連鎖は断ち切れると思う
- 教師のOBOGをSSWに再雇用してはどうか
- SSWの人材が不足しているわけではなく、待遇を整えれば、大学で福祉を勉強した方など、SSWの成り手はいる
- 宿題も行い、生活のしつけも行ってくれるので、居場所が機能することで助かるのは、学校の先生

事例の提供

- 浦添市は11校、全ての小学校に隣接して児童館がある

➤ 今後のアプローチの方向性（提案）

- 長所である、福祉と教育分野のコミュニケーションは持続可能な状態を目指すべき
- 長所をさらに拡充し、他セクターとつながることで網羅的に子どもを捕捉する
- 子どもが島の中で自立し生活していく理想イメージを民間とも共有し、共同体制を敷いていくこと

■参加者によるサブセッション

「宮古島市の子どもの貧困に対して、 地域（民間）・学校・居場所と連携して何ができるか」（原文のまま）

① 貧困家庭

貧困家庭でも上層と下層があり下層の世帯
をどうすくいあげるか？

様々な制度があるが子供に本当に支給され
ているのか？

お金ではなく物を支給した方が良い
物だと貧困だとわかる可能性

② ☆家族全体への支援 父母も当事者

☆情報の提供

働き方、家族の在り方

☆地域の連携⇒学校との交流

- ・地域行事・文化の
- ・あいさつ運動
- 子ども達、地域の大人の顔つなぎ
- ・地域の目が大事

信頼関係の構築

☆暴力を無くすことが貧困解決

具体的に

- ・里親制度を進める
- ・フードバンクを NPO 等でやっていく
- 共同、協働で
- ・ひとり親支援の体制強化
- 寮をつくる
- つぶやきをなくす

③ ・今年の 6 月

- ・不登校の中 2 の男の子
 - ・低身長：栄養不良
 - ・母：Am4 仕事
 - 父：早朝せい糖工場
 - ・親のネグレクト
- 対応：校長発見（通勤）

その後は地域の方の協力等、朝起こす
伊良部の子ども達：呼び名：たみちゃん
同じレベルで付き合う

④ 学校

- ・他生徒との行動が変わっていくことをいち早くキャッチできる場所
- ・民生に地域をくまなく見回りをしていく
- ・就学支援・申請等を手伝えるしくみ
- ・マイナンバーで申請
(就学援助、手続きの簡素化)

⑤ つなぐ役割

つなぐ役割をだれができるか
学校、行政、地域
身近な何かできる人を見つけて協働できる
策

切れ目 はざま

支援の在り方の再確認！！

既存の支援者の意識改革

- ・学校が家庭に課している 本当の必要性
- ・現物給付
- ・母子世帯の児童手当を改めて毎月にする
- 学校以外でできること
- ・自主的な申請主義の変革をのぞむ
- ・公的な支援員アウトリーチ

⑥ 親と子どもの居場所づくり

- ・みやーくのホッとホケン室
- ・主はお母さんに対して！！

⑦ ・子どもを受け入れる側の情報共有

- ・相談者側への情報提供

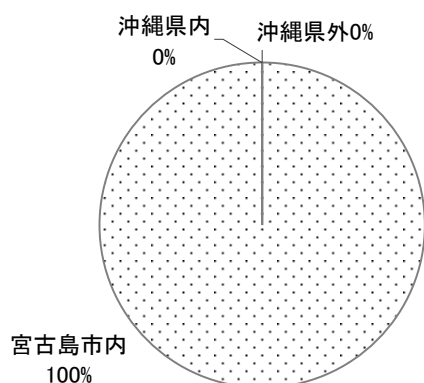
- ⑧ ・子どもの居場所はあるけれど…
 ・隣近所との関係性の薄さ
 （地域で子どもを育てる）
- ⑨ ・地域で見守る
 ・声をかける、気にかける
- ⑩ ・どんなことがあっても親の悪口をいわない
 ・子どもを褒める⇒子どもが変われば親も変わる
 母子家庭
 ・学校一学童と連携をとって成功した
 ・2人は発達障害の子（三人兄弟）
 児童館を利用している。
 ・保育所のころから利用しているが段階をふんで
- ⑪ ・潜在的数字の掘り起こしから、虐待、ネグの防止になる
- ・アドバイスをする人の知識が必要であり、対象者に伝える重要性
 地域が一体となってあたたかく声をかけていく
- ⑫ ・自立しない親子
 親、行政、学校、連携していくためには？
 ・必要性の判断
 ⇒ニーズに合ったサービス
 ・居場所の設置場所
 ・公民館等の利用
 予算、地域性の利用
- ⑬ ・子どもの居場所づくりに参画したいという企業の声もある
 ・企業との協力（連携）も必要ではないか
 ・経済的に厳しい家庭の掘りおこしには教師の働きも必要

沖縄子どもの未来県民会議地域円卓会議 in 宮古島市 参加者アンケート集計

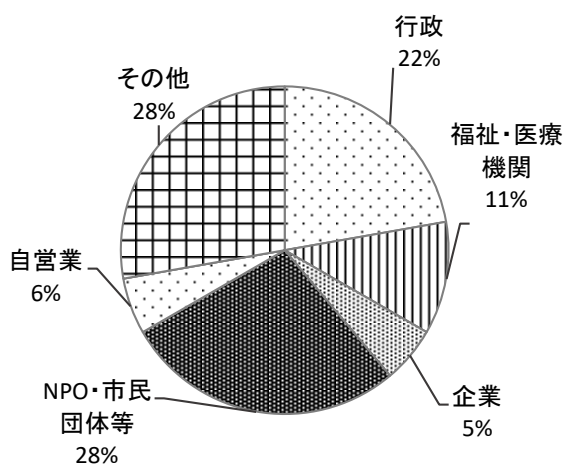
◆概要

- ・日時：2017年11月28日(火) 18:30-21:00
- ・場所：宮古島市中央公民館 研修室
- ・着席者：9名（論点提供者、司会、記録者含む）
- ・参加者：60名（アンケート回収19名、回収率32%）

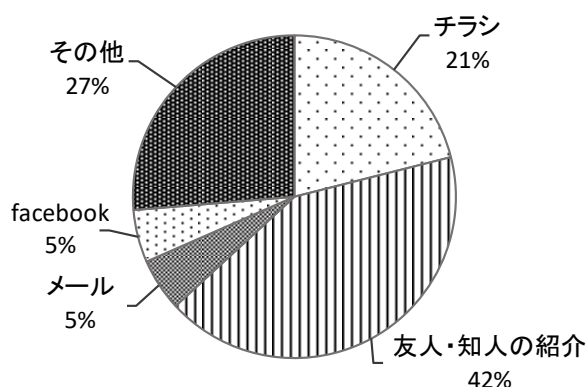
1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



4. 満足度

平均：4.3（5点中）

5.満足	4.概ね満足	3.ふつう	2.あまり満足していない	1.不満足
8名	9名	2名	0名	0名

5. 満足度の理由

（5. 満足）

- ・話しがわかりやすかった。
- ・色々な方の取り組みが聞けた
- ・感じていた貧困が少し理解できました。
柔軟さ、タイムリーに連続性に支援できるためにやれる・やるべきことができそうです。
ヒントをもらえました。
- ・宮古島の貧困を救いたいと思う方が多いことに対して
- ・情報をたくさんもらいました。
自分たちに足りないものが見つかりました。
- ・地域の取り組みを熱意が伝わった。
- ・色々な立場の方がご着席、参加されていて現状や今後とりくむべきことが見えやすく、仕事に活かせそうです。
- ・子どもの貧困に対して何ができるか、全員が真剣に考えて、共有することができた。

（4. 概ね満足）

- ・一方的な感じがいなめない
- ・現状を理解することができました。
子供に対して「貧困」というワードを使うことに対する違和感は弱干とれました。
もう少し宮古島の進むべき未来を知りたかったです。私なりに考えてみます。
- ・宮古島で子ども支援が青空にされていることがわかってよかった。
- ・色々な方が、それぞれの場所で、ガンバっているのがわかった。
- ・とても良いお話がたくさん聞けましたけど、

まだ始めたばかりということもあり広い情報をもっと聞きたかった。

- ・ 貧困・いろいろなコーディネーターの話が聞けて良かったです。
- ・ それぞれの場所での取り組み内容等がわかった。虐待や貧困の状態は小中高だけではなく、保育所、幼稚園の職員の方々が感じていることが多いと思うので、保、幼、小、中、高という学校関係の連携も大事だと思います。
- ・ もう少し時間が欲しかったですね。
パネラーが多いので、どうしても現在取り組まれている内容紹介にとどまってしまったので、聴講している方々の話、想いを聴いてみたかったです。

(3. ふつう)

- ・ 学校の現場が少し理解できた。ただ親の問題が解決しなければ子どもの問題が解決できないと思う
- ・ 論点についての時間がかかりすぎて、今宮古島市の現状を知りたかったのに時間がなくて残念です。ごめんなさい

6. 印象に残ったこと

- ・ 問題の多発している、市街地の件で子どもの居場所が近くに必要だと感じる
- ・ 年代ごとにすべき対応を変えるというのは素晴らしいと思いました。
- ・ 下地じどう館のとりくみステキ
- ・ 夜、児童館や公民館の活用は良いと思います。
- ・ ・フィードバック、連携
・ 個人的に思ったこと

高校生の通学にバスをもっとしやすくしてほしい。モノレール、高校生半額は素晴らしい。無料塾の区切りがあるのはどうかと思った。ふつうに塾に通えることがいいのでは？ いちいち役場が家族環境を確認しなくても学びたい気持ちを支援してほしい。学びたい

気持ちを育てる。心を耕してあげることをしてあげてほしい。

- ・ 記録者がいたので集中してお話を聞く事ができました。
- ・ 母子寮を早く作ってほしい
- ・ 里親の支援
- ・ 母子家族（ひとり親）の支援にさらに力を入れていくべきだと思います。
- ・ 児童館等宿題をやらせた方が良い。
- ・ ・里親制度の宮古への導入
・ フードバンクの創造

夜間までは遅い、休日の昼間にしてもらいたい。最後のまとめは必要ないのでは、同じことを繰り返す必要はないと思う。

- ・ 校長会で周知しても校長が各校の教職員にしっかり伝えているのか？

貧困による不登校、暴力行為については教員は良く知っているはず。

教育関係者がこういう会議に参加しないのが日常というのはビックリしました。

- ・ ・深夜徘徊の子供の居場所づくり

夜の児童館の利用

自分自身が相対的貧困家庭であり、シングルマザー2 児の母

子どもを小学校~大学までいかせているので、今日話された内容は身につまされるものでした。実際それらを利用した側の話も聴きたいです。”

(写真) 会場の様子



沖縄子どもの未来県民会議 2017.11.28 (水)18:30-21:40 @中城公民館 2F・4階室

地域円卓会議 in 宮古島

宮古島市の子どもの貧困に対して、地域(民間)、学校・居場所と連携し何ができるか

平良 川崎 下地 与那覇 新山 山内 来間

主催 沖縄県、沖縄子どもの未来県民会議
共催 宮古島市

論点提供

2016.6月策定
行政・経済団体・教育等
110団体 福祉団体

社会的コップ
不安定 経済的貧困 衣食住 学力 文化的 自己決定

大人の貧困
次世代の子どもの貧困

	沖縄・宮古	全国
人口	5,14x	
子ども	2割	
子どもの貧困	29.9%	13.9%
ひとり親	58.9%	
生保	2.46%	1.70%
	2.16%(宮)	
就学援助	18.62(8)	15.39%
	20.16(沖)	
	24.88%	14.47%
	32.11%	
10代 離婚率	6.4%	3.1 (10)
10代 出産	2.6%	1.1 (10)
離婚率 (ひとり親世帯)	2.58%	1.93% (10)
ひとり親世帯 児童数	6(宮)	児童数

子どもの居場所 食 学習 文化 かつ教育

行事への不参加 } 高学年 友人・知人いない } ほど高い
経済状況で差 }
→ 孤立しがち

子どもの自己肯定感 低い
→ 貧困層と非貧困層に差

絶対的貧困
1日1円 食えることに苦痛

相対的貧困
1/265の子ども 世帯の手当収入
(例) 2005/√4 = 100万円 4人家族

ひとり親世帯の就労率
母子 87.5% (80.6%) 全国
父子 92.3% (91.3%) 全国

下地さん

給付・就労支援
子どもの不利益を解消
放課後児童クラブへ
無料塾・居場所・支援員
モデル料金の割引
制服のリース

食学

まだまだ足りない

沖縄県 4.6倍
内閣府 11倍
県民会 0.8倍

様々なサービスがはかれ、孤立している子どもたちに向ける

H28.6月～
居場所・食の支援
支援員2名
SSW (教育委員)
ほりおこし 定例会
2ヵ所
ななはな 居場所につなげる
その子の現状
何に困っているかの
面談から
2ヵ所 4-5件
口コミ相談に
つながる

与那覇さん (教育委員会)

6名 SSW (スクールソーシャルワーカー)
33校 小中学校
去年、居場所・支援員
学校の現場では、
日頃 (家庭訪問・給食費)
みたりやあし立場にある
家庭環境の変化に気づき
アンテナの役割
H22へSSWスタート
学校の先生のやりがい、
つながりできた。

授業以外でやることよんでいる
生きている・調査・部活
学校からのニーズ
SSWの役割の
認知度の低さ
支援員SSWの
人材不足
はあきるかも。 専門性

来間さん (下地児童館)

児童館
乳幼児～18歳まで自由に
これる
下地地区
学校から100mくらい
10:00～18:00 (平日) 9:00～17:00 (土)

行事 ハロウィン、もちつき
母親クラブといっしょに
お昼しめるが、家で
親いながら、昼食ない子も
みえてくることも
スワフ2名

子ども食堂 10月へ
スタート
④食事提供
④おやつ提供
●学校へ子ども食堂の周知連携
●SSW・民生委員・児童委員
へつなぐことも
●老人クラブ・婦人会
学校・社協・福祉施設
公民館 といっしょに行事を
LP地域に子どもたちの
顔をおぼえもらう
子ども食堂の理解
がまだ進まない面も、発信

山内さん

●支援員のコーディネーターしている
●教育と福祉の連携できている
●積極性ある→口コミで広がる
●SSW 6名 9ヵ所 6ヵ所
●児童館 6館 9ヵ所
●情報も入るのは学校
居場所・支援員の役割
と校長会で説明も
●就学援助 1000名
●ひとり親世帯・離婚率
9ヵ所 高い

●(社福)
子どもの居場所をつくる
母子会と連携して
●母子世帯の中でも
DVふるわれた母子
が孤立している (宮古)
●母子支援施設がほしい
●地域の実情の死にた
とくみが必要

新山さん

塾・建塾 宮古から
全国1位
無料塾と居場所と運営
経済的理由で塾行けない子
お世で日本大学へ決めた子も

小中: 定員
高校: まだ少しあきある
貧困家庭の子
LPあきらめず、チャレンジ
する子でできた
保護者の自己責任論
は聞かれています
川崎さん
無関心

宮里さん (保護区協力 居場所主会) 36名

少年院と仮退院した
子と雇用する取り組み
3名が雇用している
おくはま (保護者)
自信をつけること大事
訓練→技術つけれ
おきな、頃の体験
食べさせてもらって
家に入ることもできる非行に

